

第56回横浜市地域まちづくり推進委員会会議録

日 時	令和5年5月31日（水）午前10時00分から12時00分まで
開催場所	市庁舎1階市民協働推進センタースペースA・B
出席者	【委員】 飯尾委員、片岡委員、高村委員、名和田委員、宮谷委員、三輪委員、室田委員 【事務局】 榊原部長、萩原課長、村瀬担当課長、大嶽担当係長
欠席者	【委員】 杉崎委員
開催形態	公開（傍聴0人）
議 事	1 委員長及び副委員長の選出について 2 部会の委員の選出について 3 地域まちづくり推進状況報告書・評価書・見解書（令和元～4年度）の作成について
決定事項	【議事1】委員長：名和田委員、副委員長：室田委員 【議事2】ヨコハマ市民まち普請事業部会 指名委員：杉崎委員 表彰部会 指名委員：片岡委員、高村委員、室田委員

**【議事1】委員長及び副委員長の選出**

委員長は名和田委員、副委員長は室田委員を選任する。

**【議事2】部会の委員の選出**

- ・ヨコハマ市民まち普請事業部会は指名委員（案）として杉崎委員を選任し、本人に後日意向確認の上、ご報告させていただく。（後日、了承済み）
- ・表彰部会は指名委員として片岡委員、高村委員、室田委員を選任する。

**【議事3】地域まちづくり推進状況報告書・評価書・見解書（令和元年度～4年度）の作成について**

（事務局）資料説明

（名和田委員長）前回までの委員会で貴重な意見が出ている。こういうことに留意して作成してほしいなど、色々な観点からご意見をいただきたい。

（三輪委員）報告書の章立てで言うと、「ルール作り」、「支援を受けるということ」、「まち普請」の3つ大きく構成としてあるが、それ以外に沸々と起こっているもの、地域福祉保健計画やウェルビーイング、子育てなど多方面での地域まちづくりに匹敵する活動がある。それに対して地域まちづくり条例がどう向き合うのか、新しい取組に対して、それを入れる章があった方が良いのではないのか。そのくらいしないと抜本的な条例の改正にもっていけないのではないのか。

（事務局）章立てについては、変えていきたい。また、いただいた御意見については、我々も念頭にあり、従来型ではない活動にも目を向けていかなければならないという認識を持っている。

（名和田委員長）今後の展望的な章を折り込むなどが必要ではないか。

（片岡委員）評価の視点として、三つあると思っている。  
一つ目は、中期計画や他局の計画、各部門の目標と性格を紹介していただきながら、その中で市の施策の全体の中で地域まちづくりはどこに位置している、ここを目指しているということが明確になれば、それと比較するという視点で評価できるので、それを共有できる機会があると良い。  
二つ目として、市民ニーズと社会情勢として求められているものという観点でどう評価できるかという視点がある。  
三つ目として、これまでの報告書では支援結果として見えてきた数字が掲載されていて、成果を評価するという観点ではそれで良いが、ここに見えてこない部分に課題があると思っている。それをどう捉えて評価するか。何とかそこを見えるようにして、どうアプローチすればよいか、そこに対して達成度がどの程

度であればそれを評価するかという視点も必要ではないか。

支援しなくても自立して回っていくことが理想だと思う。支援グループを減らしていても社会として成り立つかという視点も必要かもしれない。

(名和田委員長) 見えてこないとは、例えばどんなイメージか。

(片岡委員) まち普請に応募をしようと思ったけれど応募しなかった組織やグループ登録したけれどプラン策定に至らなかったとか。他にも小さくて見えていない部分は多くあると思う。

(三輪委員) まち普請の話でいうと、だめだったところが大体どこも整備出来ている。例えば、去年もだめだった団体も別の福祉の拠点系や国の助成金にトライしたり、周辺で合意形成までいかないが、ピンポイントで協力してくれる人が増えてきて、結果的に目的を達成してしまうケースもある。それを行政がヒアリングして、裏側の良いところを見せるという意味で良いと思う。

(室田副委員長) もう少し市の姿勢や今後目指す方向性が読み取れるような形になっていると良い。地域まちづくりは持続性が重要だと考えるが、どんな支援が必要なのか。市民ニーズを拾い上げることや地域の自主性を活かすことは、社会情勢の観点から上手くいっているのか、いないのか。これから考えるべき評価の視点を委員間で出し合って共有していく、またそれ以外にもこれは目指そうよというものを表に出しても良いかなと思う。これまで地域まちづくりに関わってきた人の様々な声や今まで拾ってこなかった声もこうだったら対応できたというものを報告書に反映できると良い。

(事務局) 市民協働推進条例や地域みどりのまちづくりの制度などが出来てから、まち普請の緑化系の提案は大きく減った。委員の皆さまがおっしゃられるように、全体の制度を俯瞰することは必要だと考えている。

(名和田委員長) 報告書の骨格を工夫する必要がある。

(高村委員) 市民の立場からの疑問として、この報告書を見ると地域まちづくりと他の制度との違いが分からず、まちづくりを理解している前提で作られている。市民として何かやりたいことや困っていること、住み続けていきたいまちにするためにこんなものがあつたらいいなと思っても、どうしたらそれらを実現できるのかが分からない。例えば、報告書を見れば前例が出ているなど、検索性を高めることがツールとして考えるのであれば必要。市民の人がこんなことがあつたらいいねと考えても、周りの人を5人集めて、登録してという既存のフローでは、その枠組みの中でやりなさいと言われてるように感じてしまう。

(名和田委員長) 報告書の導入部分が解りにくいかもしれない。

(飯尾委員) 先ほど見えていないまちづくりという話があつたが、まちづくりは本来ほとんど見えない部分でやっているものではないか。例えば、私の参加しているまちづくりでも、危険だとされている公道に面したブロック塀も一向に無くならないが、いちいちプランやルールで作るものでなく市民が守るべき事ではないか。まち普請などは横浜市として誇るべきことではあるが、ブロック塀やごみなども住んでいる人にとっては大きな問題で、市民が守るべきルールを横浜市として見せてほしい。そういう見せ方をしないと守られていけない。

(名和田委員) 地域福祉保健計画の中の地区別計画では、ブロック塀やごみ出しのルール、道路脇の植栽の問題など、見えないことが出てくる。そうした事をくみ取れるような仕組みも大事なことだと思う。飯尾委員は建築協定の委員会もずっとやっているとお聞きした。

(飯尾委員) 30年くらい携わっている。建築協定は、決められた事項を守りなさいという事で、200㎡以上の敷地確保や道路からのセットバックなど厳しい規制をすればきれいなまちにはなるが、建築協定ではコミュニティは育たない。

(宮谷委員) 今まで条例で枠組みを決めていた地域まちづくりと市民が捉えている地域まちづくりという言葉のイメージや現実の活動のギャップを埋めて、地域まちづくりをどう定義し直すか。地域まちづくり課が所管ではないところもあるから、それをどう再定義していくのか難しいがすごく大事なこと。今は色々ものが入り組んでいるからそれを明らかにして、足りていない部分があれば補完していかなければいけない。コロナ禍で地域活動も停滞してしまった。だからこそ、まちづくりの担い手の育成や理解者を増やす取り組みが大切である。

(三輪委員) 今日の議論を踏まえて構成などが変わった場合に、今後のスケジュールはどうなるのか。

(事務局) 今日の大きなテーマでの議論は今年度だけで完結せず、中長期的に検討していく。今年度作る報告書の中にこういった意見が出ているという事は盛り込んでいきたい。いただいた意見も踏まえて今後のスケジュールも共有したい。章立てについても変えていくつもりではあるが、まちづくりの定義などについての次年度以降の方向性までは現時点では出せないと思っている。

(事務局) この報告書自体が、条例制定の点検をしていくためのであり、今の章立てになっている。

報告書は、「報告」「評価」「見解」の三段階になっているが、「報告」に対して委員のみなさまから「評価」のコメントをいただくだけではなく、今日いただいたような意見を報告書の中に位置づけて、今後の市の施策の中にどこに位置しているのかを整理していきたい。そのために、章立てやデータも整理して、コンパクトにしていく。

(名和田委員長) 昔は執筆担当を割り振っていたが、今回はやらないという事務局から提示がありました。我々としては、大きな視点で意見を言うていくという形になる。

(事務局) 今までは章ごとに担当制をお願いをしていたが、皆さんが感じたところに意見を出してほしいと考えている。章立ての内容から意見が集中するところ、意見がないところが出てくると想定しており、全部に一読して意見出しをしてください、というようなものではない。

(三輪委員)

8月の段階(各委員に評価を依頼する段階)でどのレベルの評価が求められるのか。

(事務局) フリーディスカッションの場をもう一回設けた方が、他の委員の意見も聞けて活発な意見が出るかもしれない。

(三輪委員)

それに集中する会議があっても良い。

(名和田委員長) それまでにもう一回議論があった方がよいのではないかと。是非検討いただきたい。

(片岡委員) 冊子やPDFが成果品ではなく、報告書の内容自体が成果品。冊子やPDFを内容と分けて考えた方がいいのではないかと。例えば、検索をかけてPDFが出てきても読む気がしない。内容も含めたデータと分けて考えたときにこのパートはウェブサイトイラスト、写真などのビジュアルも含めて載せる等、成果物の出し方を意識してほしい。

(高村委員) ツールと言うからには、身近な施設整備支援のチラシのように市民の方が「スロープ」「花壇」「キッチン」等で検索するとヒントが簡単に得られる。事例が見つけられるきっかけになると良い。

(名和田委員長) 地域まちづくりと地域まちづくり推進条例を大きな視点で見直そうというのは、大変良いことだと思う。中でも地域福祉保健計画との連携を深める事が重要であると考えている。横浜市の地域福祉保健計画は、単なる福祉分野の計画ではなくコミュニティ政策そのものになっている。2005年に地域福祉保健計画をつくる事になり、その後横浜市が地域コミュニティ政策をやっても良いかなという情勢になっていて、その役割を担わされている。もっと健康福祉局にもご理解をいただき、連携して動いて

いく必要がある。

地域まちづくり推進条例の仕組みを考える上で地域福祉保健計画が重要な意味を持っている。

(宮谷委員) 以前いらっしゃったような幹事は今回いないのか。

(事務局) 議題に関連する部署に臨時幹事として来ていただく。

(名和田委員長) 恒常的に来ていただける幹事がいても良いかもしれない。

(室田副委員長) ただ、横浜市の場合は、地域によって関連する分野や構造があり、関連する部署を呼ぶ場合に配慮が必要だと思う。どこまで声を掛けるか、協力体制を作っていくことが大事だと思う。

(事務局) 今後、大きなテーマで話していくので、市民局、健康福祉局等と共有していきながら幹事として入っていただく。

(室田副委員長) 今回のような方向性を決める上で、色々な立場の人がざっくばらんに話し合える場もてると良い。常にチャレンジしているようなものは受け止めるべきなんじゃないかと思っていて、地域みどりや防災等、どんなシーズがあって、そういったまちづくりのシーズを発展していく役割がこの会議にはあると思う。

(片岡委員) 今回の報告書には間に合わないと思うが、データの取り方を整理していただきたい。分かりやすく言えば、毎年同じアンケートを取り続ける中で、満足度が上がっている、下がっているとか今後どういう風にしていくべきか条例を見直しながら一緒に検討していただきたい。

(名和田委員長) 市民意識調査に質問を入れるとかはいかがか。

(事務局) 毎回入れるというのは難しい。

(片岡委員) ある区で歴史を生かしたまちづくりを行っていたが、区民意識調査に歴史という言葉すら出てこなかった。関わった人のアンケートなども検討していただくと評価もしやすくなるのかなと思う。

(室田副委員長) WEB アンケートなどは今では簡単に出来るようになっている。それをもっと活用してはどうか。

以上